

## 河川に生息する生物の確認状況（河川の自然度・健全度）

ここでは河川と関わりの深い種や、私たちにとって馴染み深い種などの生息状況を、「河川水辺の国勢調査」の結果から整理し、現在の河川の自然環境について検討しました。なお、前回、前々回調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしか見られない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

## 鳥類からみた河川の現況

### 【オオハクチョウ、コハクチョウの確認状況】

（鳥類調査）

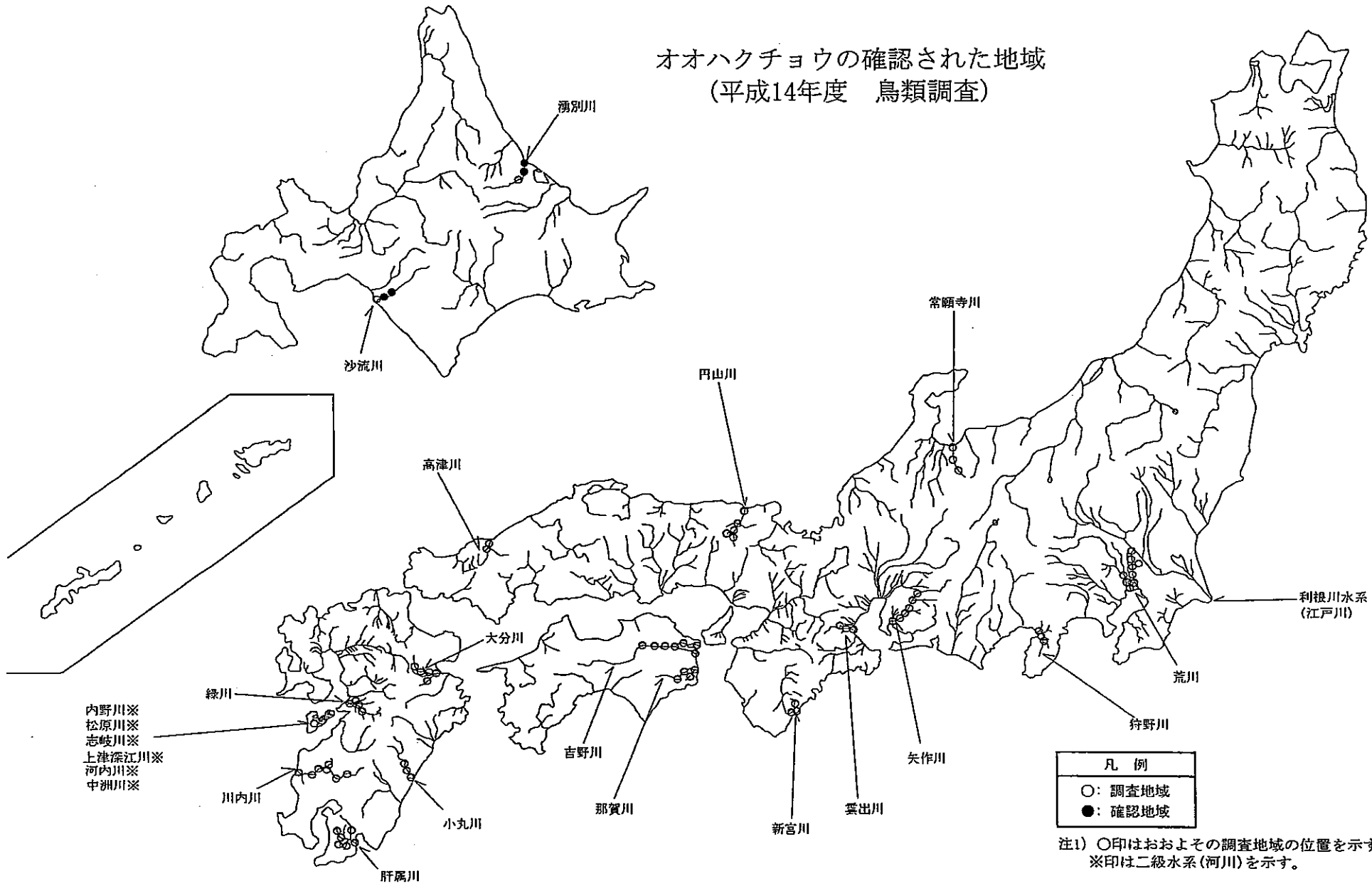
- オオハクチョウを 2 河川、コハクチョウを 3 河川で確認

冬の渡り鳥の代表として、オオハクチョウとコハクチョウの確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、オオハクチョウは北海道地方の 2 河川、コハクチョウは北海道地方の 1 河川、北陸地方の 1 河川、九州地方の 1 河川の計 3 河川で確認されました。

（資料掲載：4-11～4-12、4-46 ページ）

オオハクチョウとコハクチョウは、ともに北日本や日本海側の河川の静水域や湖沼等に冬鳥として飛来します。今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、オオハクチョウは北海道地方の湧別川、沙流川、コハクチョウは、北海道地方の沙流川、北陸地方の常願寺川、九州地方の川内川で確認されました。

オオハクチョウの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)

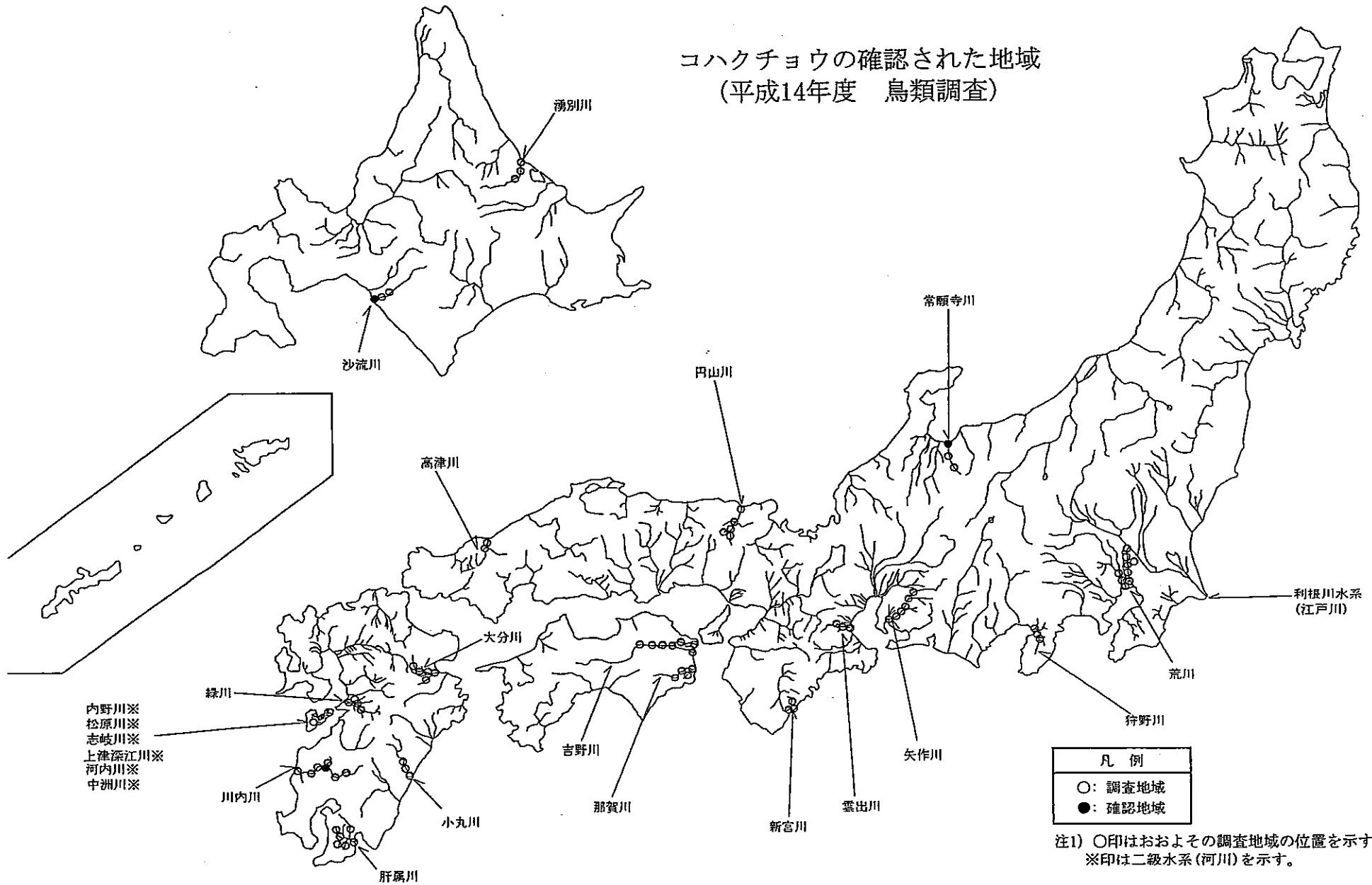


凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

コハクチョウの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

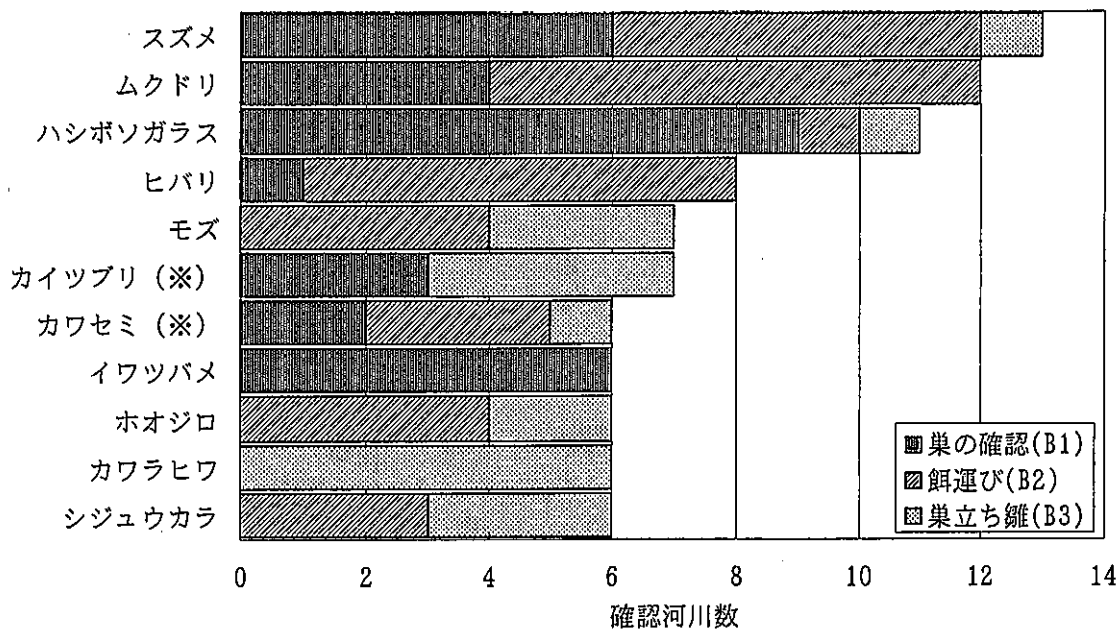
- 鳥類確認種の約4割の種が河川で繁殖行動  
 河川が鳥の繁殖場所として利用されている状況について整理しました。  
 巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの繁殖確度の高い繁殖行動が確認された河川数の多い種は、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、モズなどでした。

(資料掲載: 4-14 ページ)

鳥類の観察情報として「河川水辺の国勢調査」では、巣の確認・餌運び・巣立ち雛・巣材運び・擬傷(警戒)・囀りおよびディスプレイなどの行動様式を記録しています。特に巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの行動は、河川域での繁殖が確実な情報として考えられ、その他の行動も近くでの繁殖を示唆する情報であると捉えられます。

巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの繁殖行動が確認された河川数の多い種は、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、モズなどでした。

なお、本調査の繁殖行動は、鳥類の種・個体数等を調査するときに、偶然見られた繁殖を示唆する行動を記録したものです。繁殖を示唆する行動の確認を目的に追跡したものではありませんので、繁殖行動が観察されていなくともその河川もしくは周辺の地域で繁殖をしている可能性を否定するものではありません。



鳥類の繁殖確度の高い繁殖行動が確認された河川数

注1) 繁殖の確度の高い繁殖行動(B1~3)の確認された河川数が今回調査を実施した1級河川の3割以上で確認された種を示した。

注2) 種名の後の(\*)は、「河川に依存度の高い種」で取り扱った種を示す。

鳥類の繁殖確度の高い繁殖行動一覧

No.	種名	北海道		関東		北陸		中部		近畿		中国		四国		九州										一級河川での確認率 (%)	
		湧別川	沙流川	利根川水系江戸川	荒川	常願寺川	狩野川	矢作川	雲出川	円山川	新宮川	高津川	吉野川	那賀川	緑川	大分川	小丸川	川内川	肝那川	河内川※	内野川※	中洲川※	志岐川※	松原川※	上津深江川※		
1	スズメ	B2		B1	B1		B2	B1	B2		B1	B3	B2	B1	B1	B2	B2			B3	B3	B3	B3		B3	72.2	
2	ムクドリ	B2		B2	B1	B2	B2	B2	B2		B2	B1		B1	B1	B2										56.1	
3	ハシボソガラス	B1	B1		B1	B1					B3		B1	B1	B1	B1			B2	B3						61.1	
4	ヒバリ		B2	B2	B2						B2		B2	B1		B2			B2							44.4	
5	モズ	B2	B2	B2	B3						B2	B3				B3										38.9	
6	カイツブリ							B3	B3	B3				B3		B1	B1		B1							38.9	
7	カワセミ							B1	B2	B1			B3	B2				B2								33.3	
8	イワツバメ	B1						B1		B1			B1		B1	B1								B1		33.3	
9	ホオジロ	B2			B3						B2	B3		B2		B2								B3		33.3	
10	カワラヒワ				B3	B3				B3	B3	B3		B3									B3			33.3	
11	シジュウカラ	B3		B2	B3		B2	B2					B3													27.8	
12	セグロセキレイ	B3									B2		B3	B3	B3											27.8	
13	ハシブトガラス	B3	B1		B1						B2	B1														27.8	
14	バン			B3	B1						B3			B3	B1								B3		B2	B1	22.2
15	ツバメ				B3						B2		B2	B2					B3	B1				B2	B1	22.2	
16	アオサギ										B1		B1		B1	B3					B1	B3				22.2	
17	カルガモ				B2		B3	B3					B3													22.2	
18	ゴイサギ												B3		B3	B3										16.7	
19	キジ									B3			B3													16.7	
20	コチドリ				B1					B3			B3													16.7	
21	ドバト			B1	B1								B1										B1			16.7	
22	ハクセキレイ	B2			B2								B3													16.7	
23	キジバト													B1	B1											11.1	
24	セッカ				B2						B1															11.1	
25	ミサゴ										B2								B2							11.1	
26	チヨウゲンボウ			B2	B1																					11.1	
27	イカルチドリ											B3	B3													11.1	
28	キセキレイ	B3										B2								B3						11.1	
29	ヒヨドリ				B3							B2														11.1	
30	イソヒヨドリ									B3	B2													B3		11.1	
31	オオヨシキリ			B2	B2																					11.1	
32	ヤマガラ									B3			B3													11.1	
33	ホオアカ		B2									B1														11.1	
34	シロチドリ												B3													5.6	
35	エナガ	B3																								5.6	
36	ダイサギ											B1														5.6	
37	マガモ	B3																								5.6	
38	トビ																						B3	B1		5.6	
39	オオタカ			B2																						5.6	
40	サンバ											B2														5.6	
41	クマタカ															B2										5.6	
42	イソシギ					B1																				5.6	
43	セグロカモメ																		B2							5.6	
44	アオバズク														B1											5.6	
45	フクロウ									B3																5.6	
46	ショウドウツバメ	B1																								5.6	
47	コシアカツバメ							B1																		5.6	
48	ノビタキ	B2																								5.6	
49	ウグイス										B2															5.6	
50	メジロ											B2														5.6	
51	アオジ	B2																								5.6	
52	ニュウナイスズメ	B1																								5.6	

注1) 河川名欄の※は二級河川を示す。

注2) 凡例B1:巣の確認B2:巣立ち確認B3:飼育

注3) 行動観察は、ラインセンサス調査、定点調査および集団分布地調査に基づいてとりまとめを行い、同一河川で複数の行動が観察された場合は、最も繁殖の可能性が高い行動を記載し、その他の行動は割愛しています。

【ミサゴとチュウヒの確認状況】

(鳥類調査)

- 猛禽類のミサゴは約9割の一級河川で全国的に確認、チュウヒは一級河川5河川で確認  
水辺の食物連鎖の上位種として、魚を主な餌とし河川に依存性の高いミサゴと、河川の  
ヨシ原などに生息し、ネズミやカエル、小鳥などを餌とするチュウヒについて確認状況を  
整理しました。

ミサゴは、今回とりまとめを行った一級河川18河川のうち、16河川で確認されました。  
また、チュウヒは、5河川で確認されました。

(資料掲載: 4-16~4-17、4-46 ページ)

ミサゴは、魚を主な餌とする猛禽類で、河川や湖、海岸などに生息しています。環境省のレ  
ッドデータブック(2002)では準絶滅危惧種に指定されています。ミサゴは、今回とりまとめ  
を行った一級河川18河川のうち、16河川で確認されました。確認された調査地区の位置は、  
主に河川の河口から下流域でした。ただし、一部の河川では上流まで確認されており、このよ  
うな河川は、ミサゴが採餌を行えるような広い水面と豊かな魚類資源を保った場所として注目  
できます。

チュウヒは冬鳥で、シベリア・極東から越冬のため飛来しますが、北海道や本州中部以北で  
は繁殖することが知られています。ネズミやカエル、小鳥などの小動物を餌とし、河川の中洲  
のヨシ原やセイタカアワダチソウ群落、平地の広いヨシ原などに生息し、ヨシやスキの茎で  
地上に巣を造ります。環境省のレッドデータブック(2002)では絶滅危惧II類に指定されてい  
ます。チュウヒは、今回取りまとめを行った河川のうち、北海道地方の沙流川、中部地方の矢  
作川、近畿地方の円山川、四国地方の吉野川、九州地方の川内川の5河川で確認されました。  
確認された調査地区の位置は、主に河川の河口から下流域でした。確認時期をみるといずれも  
渡りの時期か越冬期でした。

なお、二級河川では、九州天草地方の6河川についてとりまとめを行いました。ミサゴが  
2河川で確認されました。

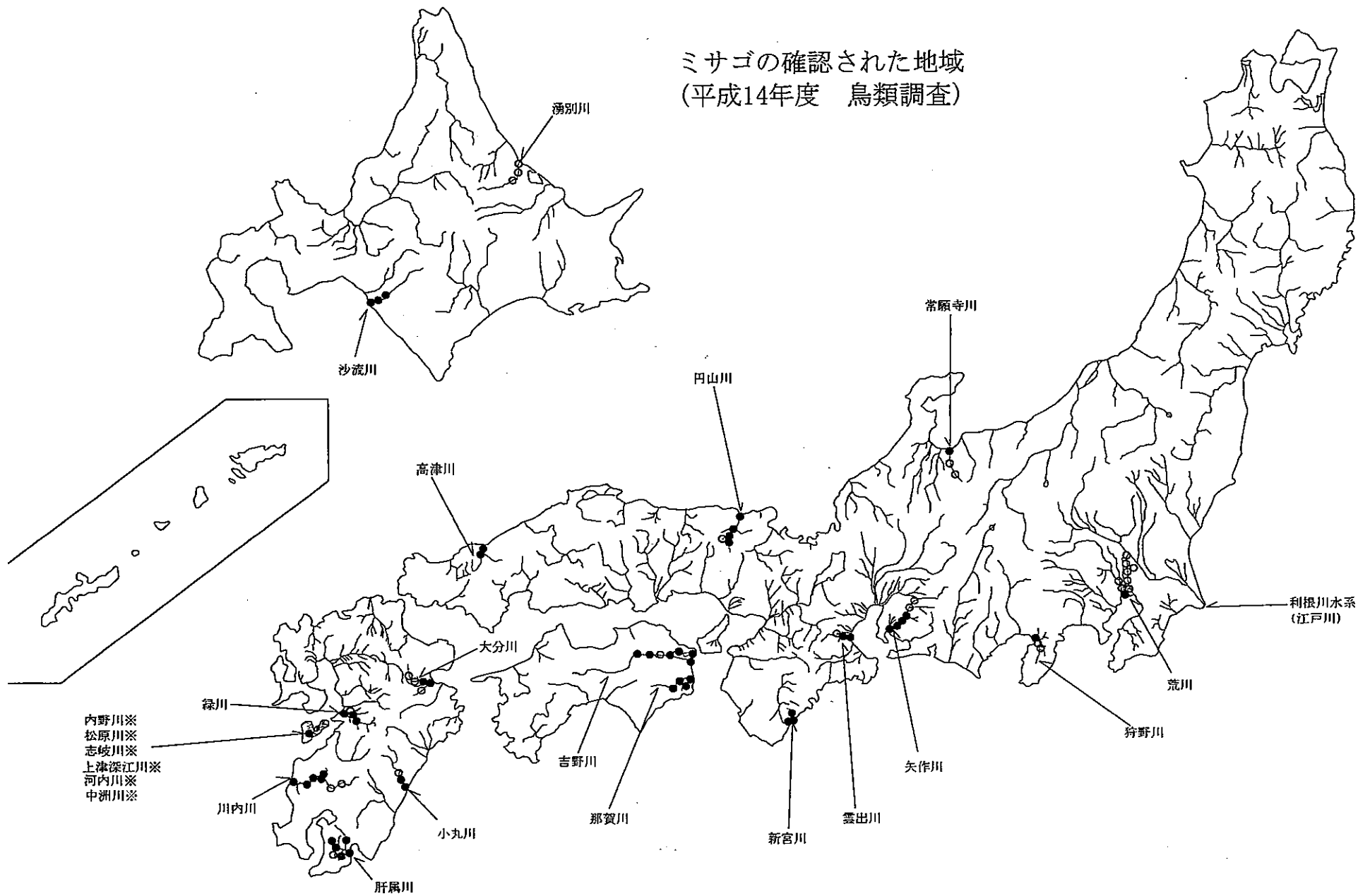
チュウヒの確認時期

地方	河川	2002年												2003年			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
北海道	沙流川				○	○	○			●	●		○				
中部	矢作川			●	●		○			●				●			
近畿	円山川					○	○		○			●	●				
四国	吉野川				●		○	○		○	○	○					
九州	川内川											●		●		●	

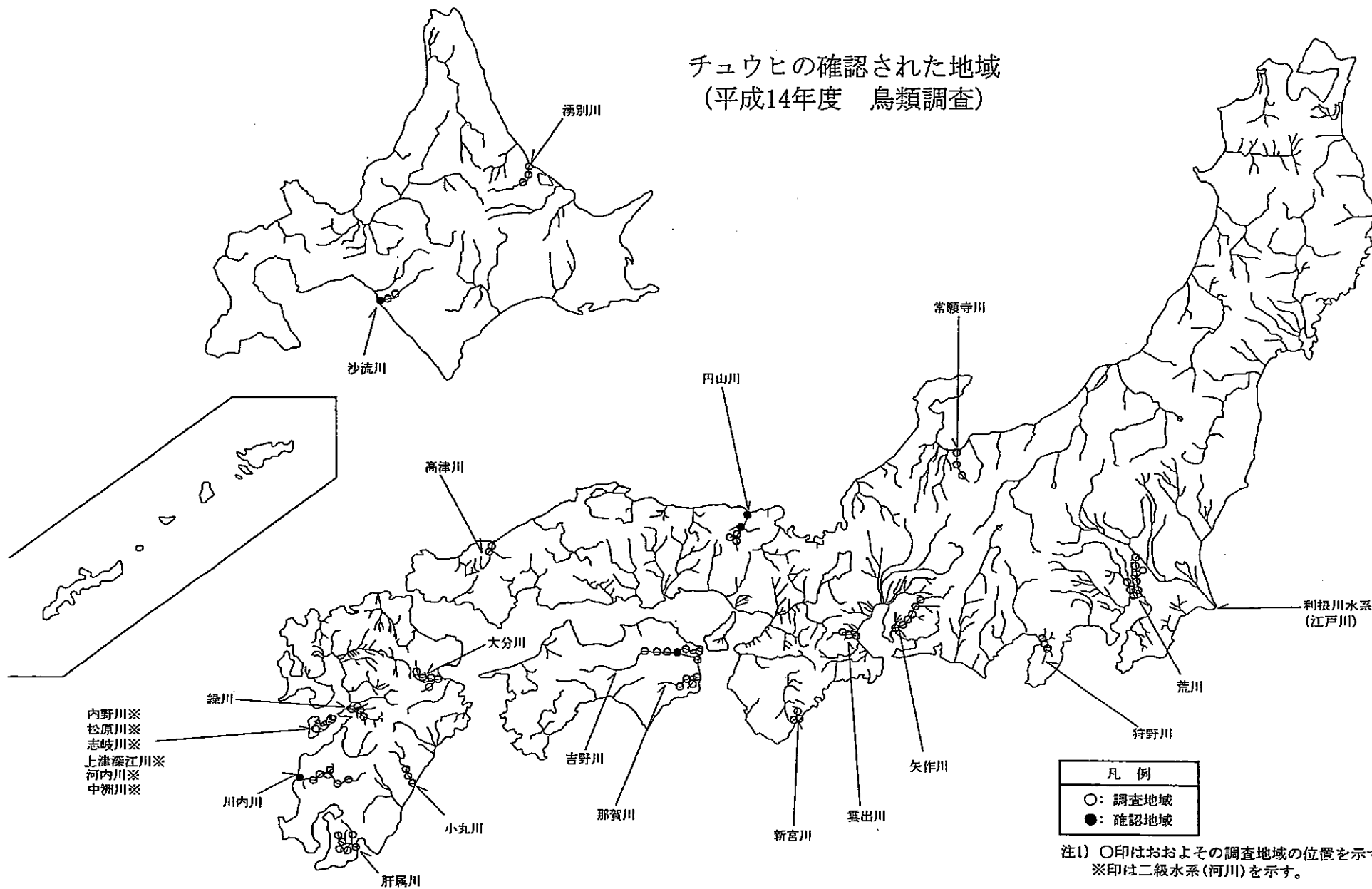
凡例) ○: 調査月、●: 確認月

注) 表にはチュウヒの確認された河川のみを掲載した。

ミサゴの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



チュウヒの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。



【河川に依存度の高い種（オオヨシキリ、コヨシキリ）の確認状況】

（鳥類調査）

- オオヨシキリを 16 河川、コヨシキリを 8 河川で確認  
ヨシ原で繁殖する代表的な鳥であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。  
オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川中 16 河川で確認されました。  
コヨシキリは 8 河川で確認されました。

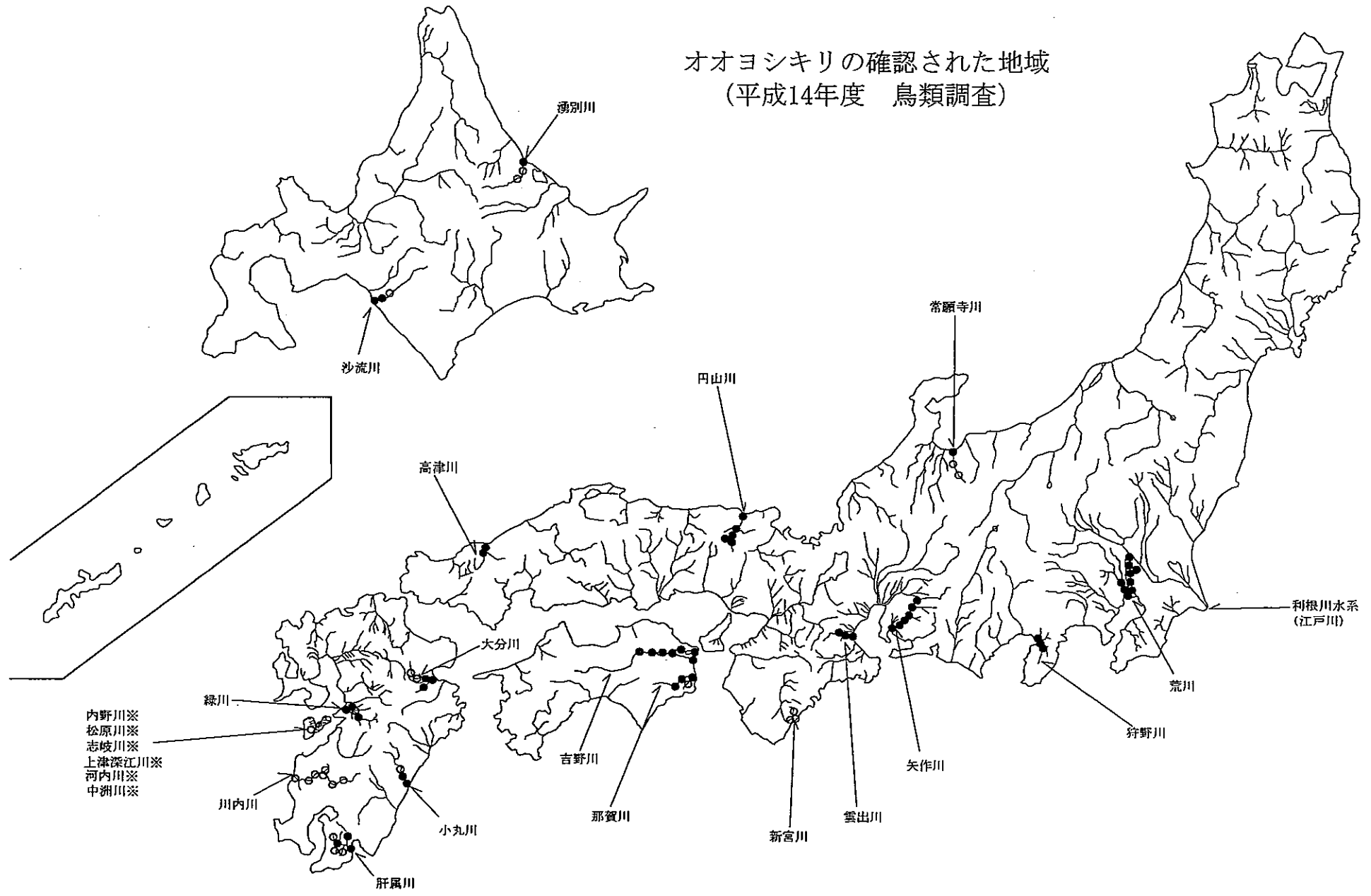
（資料掲載: 4-19～4-20、4-46 ページ）

オオヨシキリは全国のヨシ原に広く分布する種です。コヨシキリも同様に全国のヨシ原に生息しますが、本州中部以南（西）では高原の背の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川中 16 河川で確認され、本州では概ね河川の下流から上流まで広く確認されていました。コヨシキリは、四国地方を除く 8 河川で確認されました。

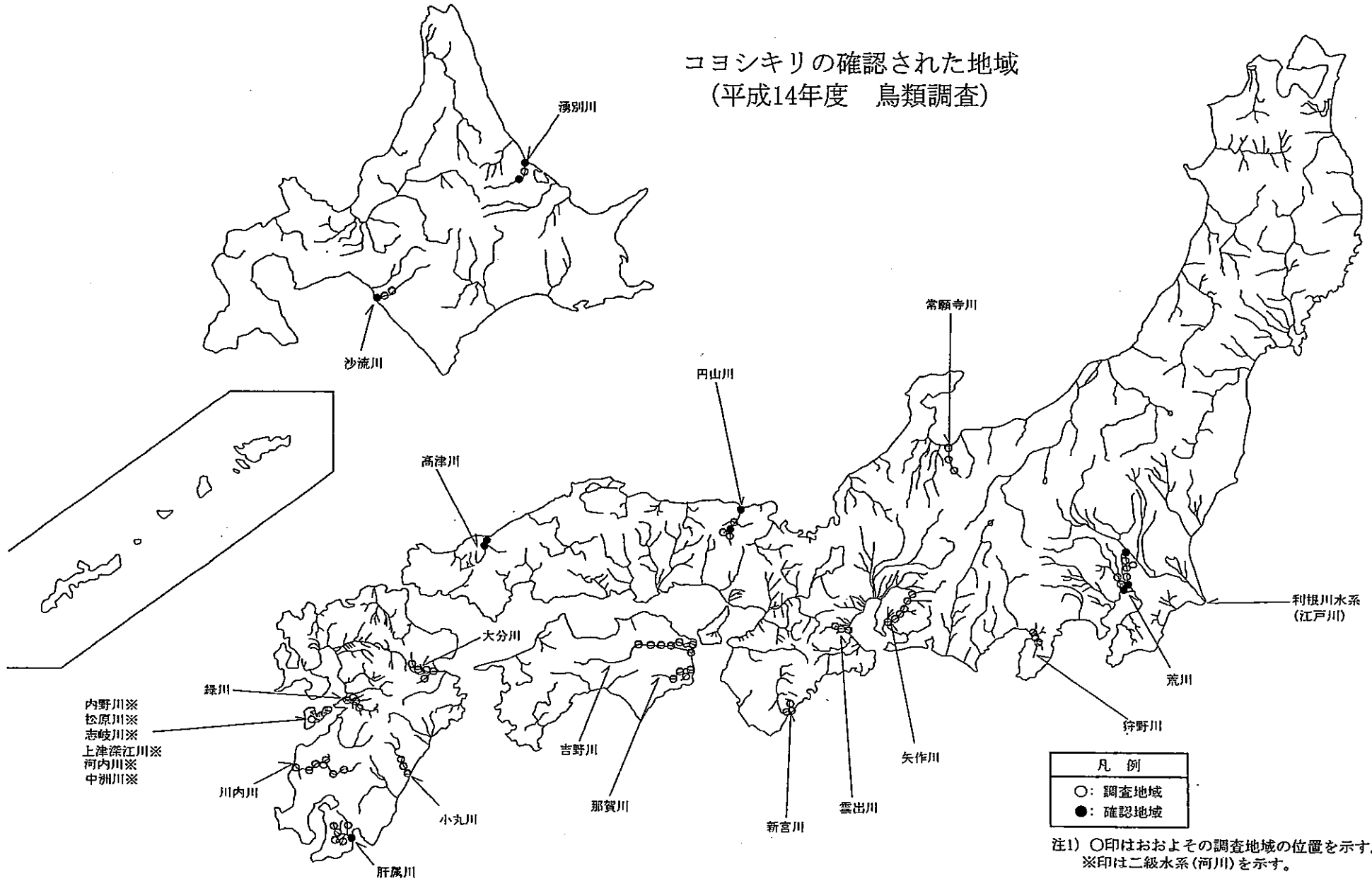
なお、二級河川では、今回九州天草地方の 6 河川についてとりまとめを行いました。オオヨシキリ、コヨシキリとも確認されませんでした。

オオヨシキリの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



コヨシキリの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)

4-20



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

- カイツブリは全国ほとんどの河川で確認  
ヨシの茂みの中や水草の上に浮巣を造り、水辺に依存性の強いカイツブリの確認状況を整理しました。  
カイツブリは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、17 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-22、4-26 ページ)

カイツブリは、ヨシの茂みの中や水草の上に浮巣を造り、主に小魚や甲殻類、水生昆虫、貝類などを餌としています。西日本ではほぼ周年見られます。縄張り性が強く、本州の太平洋岸や西南日本では一年中つがいで縄張りを形成します。

カイツブリは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、17 河川で確認されました。確認位置をみると、北海道や北陸地方の河川では河口付近で確認されましたが、関東以西の河川では、下流から上流までの広範囲にわたって確認されました。

なお、二級河川では、九州天草地方の 6 河川についてとりまとめを行いました。そのうち 1 河川で確認されました。



- カワウは全国ほとんどの河川で確認  
魚を餌とし、河畔林などに営巣地を持つカワウの確認状況を整理しました。  
カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、16 河川で確認されました。  
本種は最近増加しているといわれています。前回調査と比較すると、九州地方の緑川で今回新たに確認されました。

(資料掲載: 4-24、4-46 ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 18 河川)

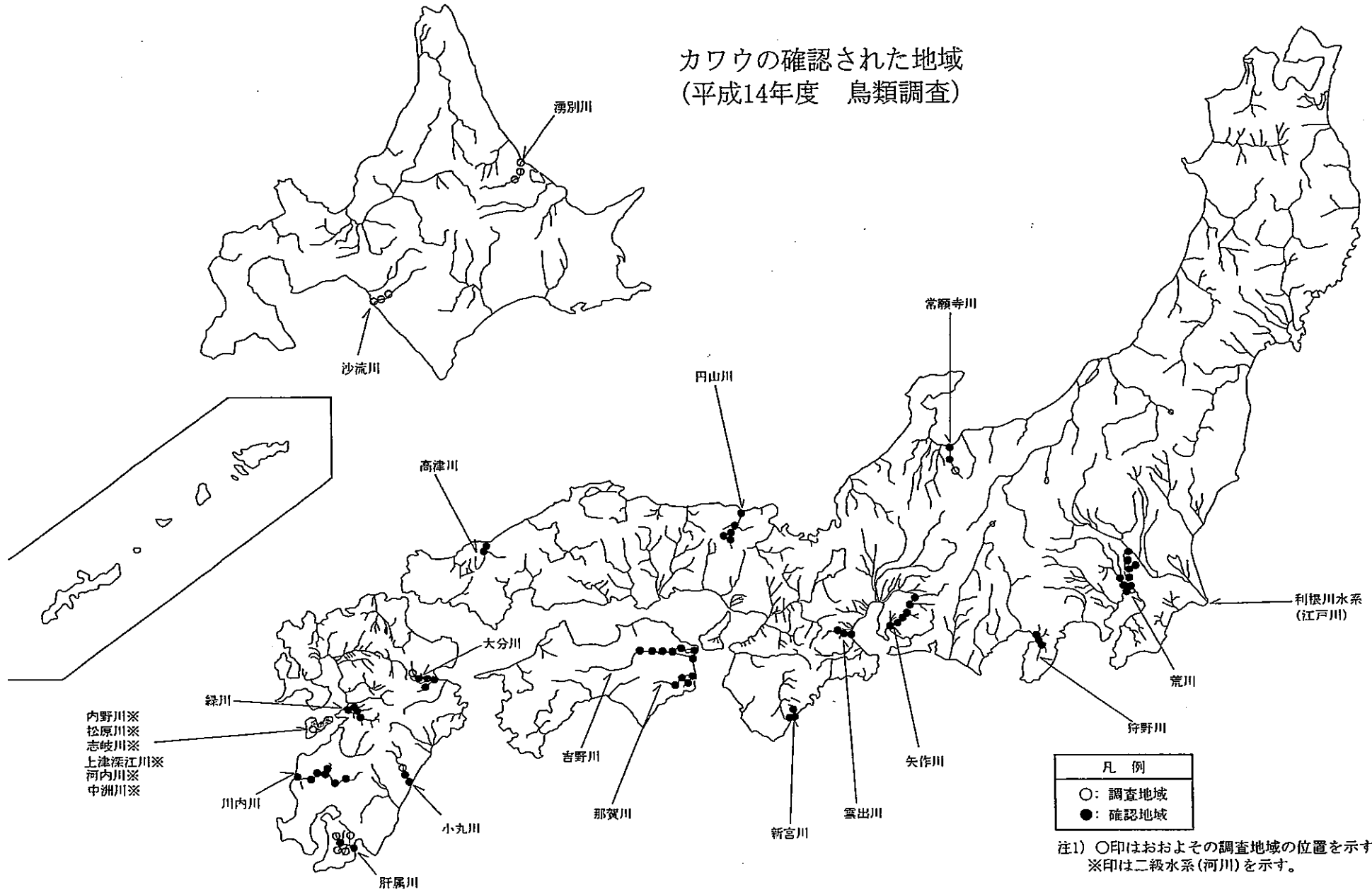
種類	前々回調査	前回調査	今回調査
カワウ	14 河川	15 河川	16 河川

カワウは、内湾部や内陸の淡水、河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。一年を通して群れで生活し、水かきのついた足を使い、尾を舵にして巧みに潜水し、魚類や甲殻類を捕らえます。一時は個体数の減少が心配されたこともありますが、近年増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等に食害を与えている例も知られています。

カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、北海道地方を除く 16 河川で確認されました。確認位置をみると、多くの河川では、下流から上流までの広範囲にわたって確認されています。今回調査を行った一級河川の前々回調査、前回調査における確認河川数と比較すると、増加傾向が見られました。

なお、二級河川では、九州天草地方の 6 河川についてとりまとめを行いましたが、カワウは確認されませんでした。

カワウの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

- カワセミは調査を行った全ての一級河川で、ヤマセミは約4割の河川で確認  
小魚を餌とし、土の崖地などを営巣場所とするカワセミとヤマセミの確認状況を整理  
しました。  
カワセミは、今回とりまとめを行った一級河川18河川全てで確認されました。またヤ  
マセミは、一級河川8河川で確認されました。

(資料掲載: 4-26~4-27、4-46~4-47 ページ)

カワセミとヤマセミは、ともに北海道地方から九州地方まで広く生息します。カワセミは、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥(1年を通してみられる鳥)であり、ヤマセミは、全国で留鳥です。主に河川や池沼で小魚を餌として生活しており、営巣場所には土の崖地などが必要です。ヤマセミは主に山地や中流域に生息し、カワセミは上流から海岸近くまで生息します。

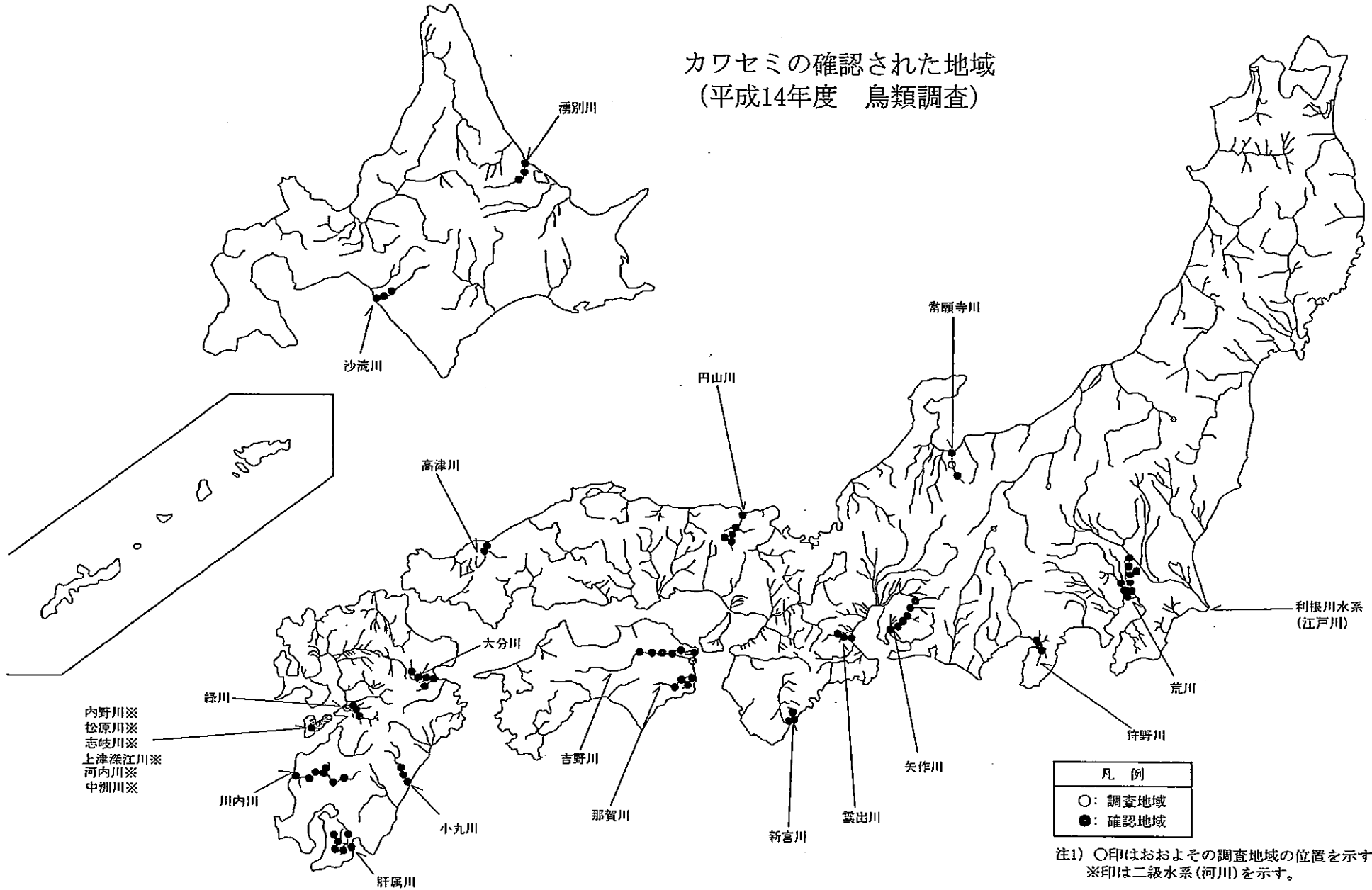
カワセミは、今回とりまとめを行った一級河川18河川全てで確認されました。確認された調査地区も下流から上流に至る広範囲にわたっていました。なお、二級河川では、九州天草地方の6河川についてとりまとめを行いました。その全ての河川で確認されました。

ヤマセミは、中部地方の2河川、四国地方の1河川、九州地方の5河川の一級河川計8河川で確認されました。中部地方、四国地方の河川では、主に上流域など河川の一部で確認されましたが、九州地方の河川では上流から下流にかけて広範囲で確認されました。

なお、二級河川では、九州天草地方の6河川についてとりまとめを行いました。ヤマセミは確認されませんでした。



カワセミの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)

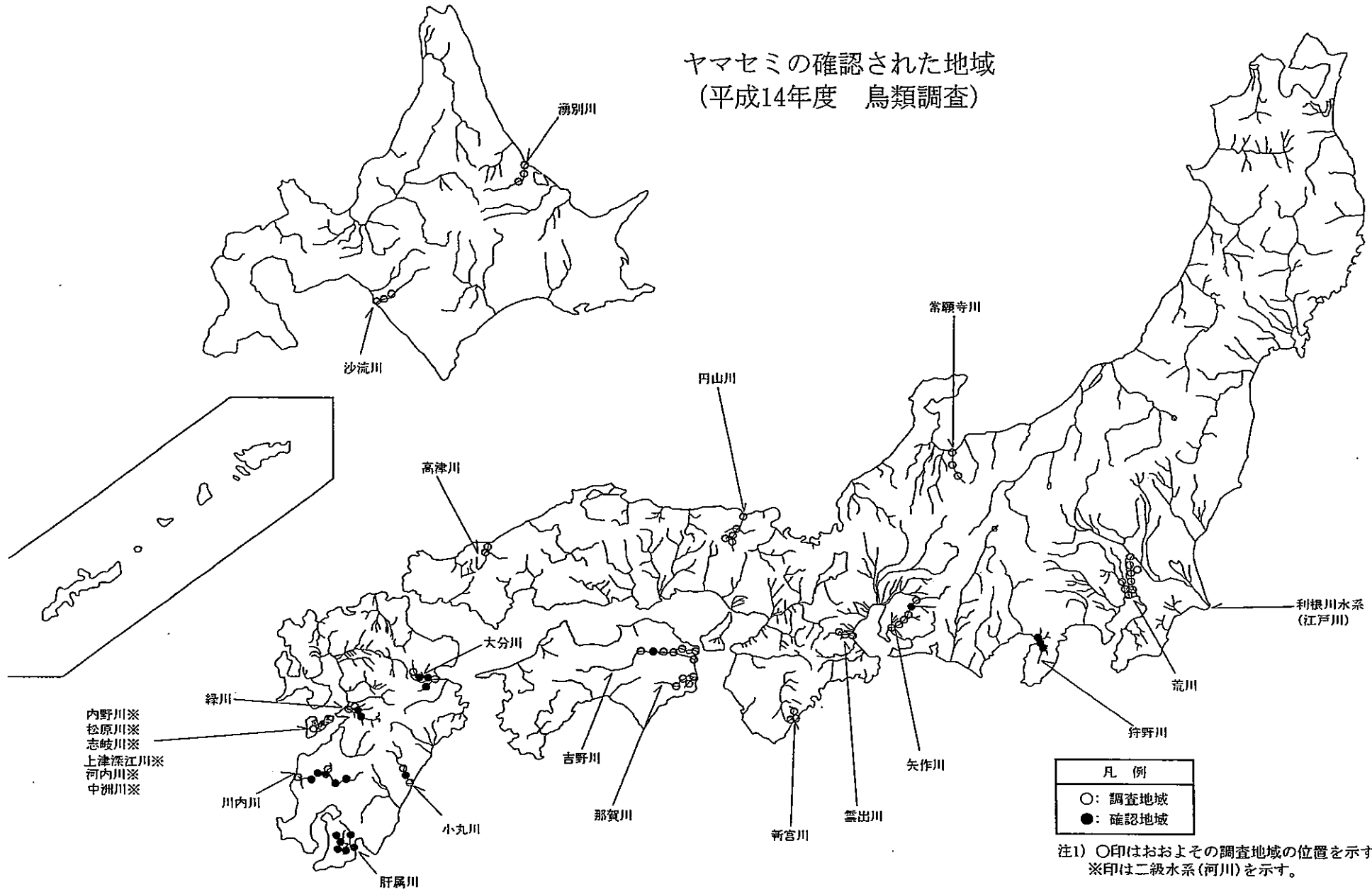


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

ヤマセミの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

- 水辺の鳥であるキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイを全国のほとんどの河川で確認

良好な河川環境を考えるうえで、水辺に依存性の強いキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの確認状況を整理しました。

今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、キセキレイは 17 河川、ハクセキレイは 17 河川、セグロセキレイは 18 河川と、3 種ともほとんどの河川で確認されました。

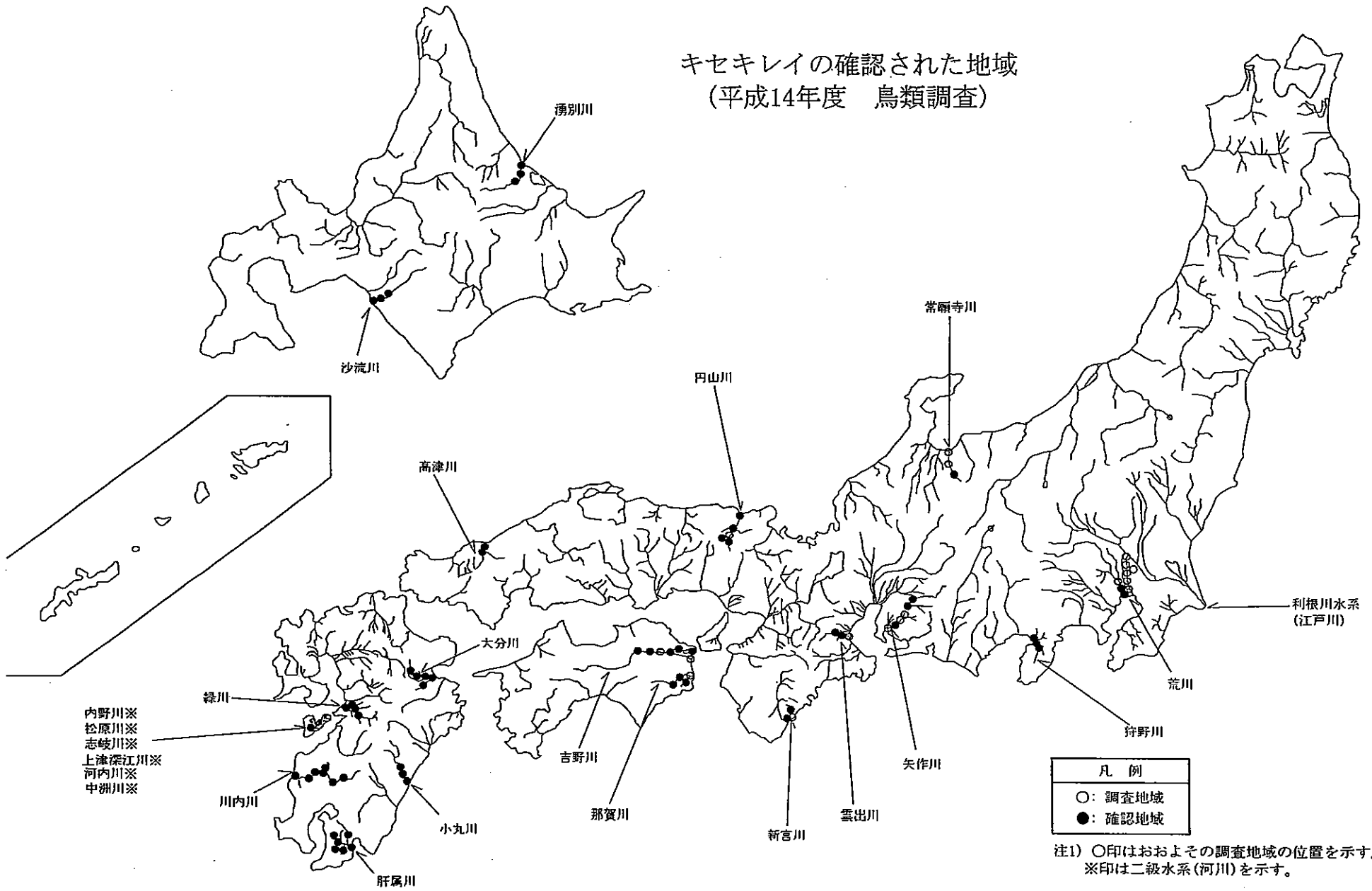
(資料掲載: 4-29~4-31、4-47 ページ)

キセキレイは、日本では九州以北で繁殖し、冬は本州中部以南に普通にみられます。平地から山地の川、湖沼の近くに生息します。ハクセキレイは、関東以北と九州、中国地方の一部で繁殖するほか、冬鳥として多数飛来し、冬は本州以南で普通にみられます。海岸、河口、広い河原や水田に生息し、川の上流や山地の水辺には少ないといわれています。セグロセキレイは、主に日本に分布し、北海道から九州まで繁殖し、ほとんどの地方で一年中みられます。中流域の広い河原や湖沼の近くに生息し、都会でも近くに水辺があれば生息できます。

3 種とも、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のほとんどの河川で確認され、観察位置も河川の広い範囲にわたっていました。

なお、二級河川では、今回九州天草諸島の 6 河川について取りまとめを行いました。そのうちキセキレイは 6 河川、ハクセキレイは 5 河川で確認されましたが、セグロセキレイは確認されませんでした。

キセキレイの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)

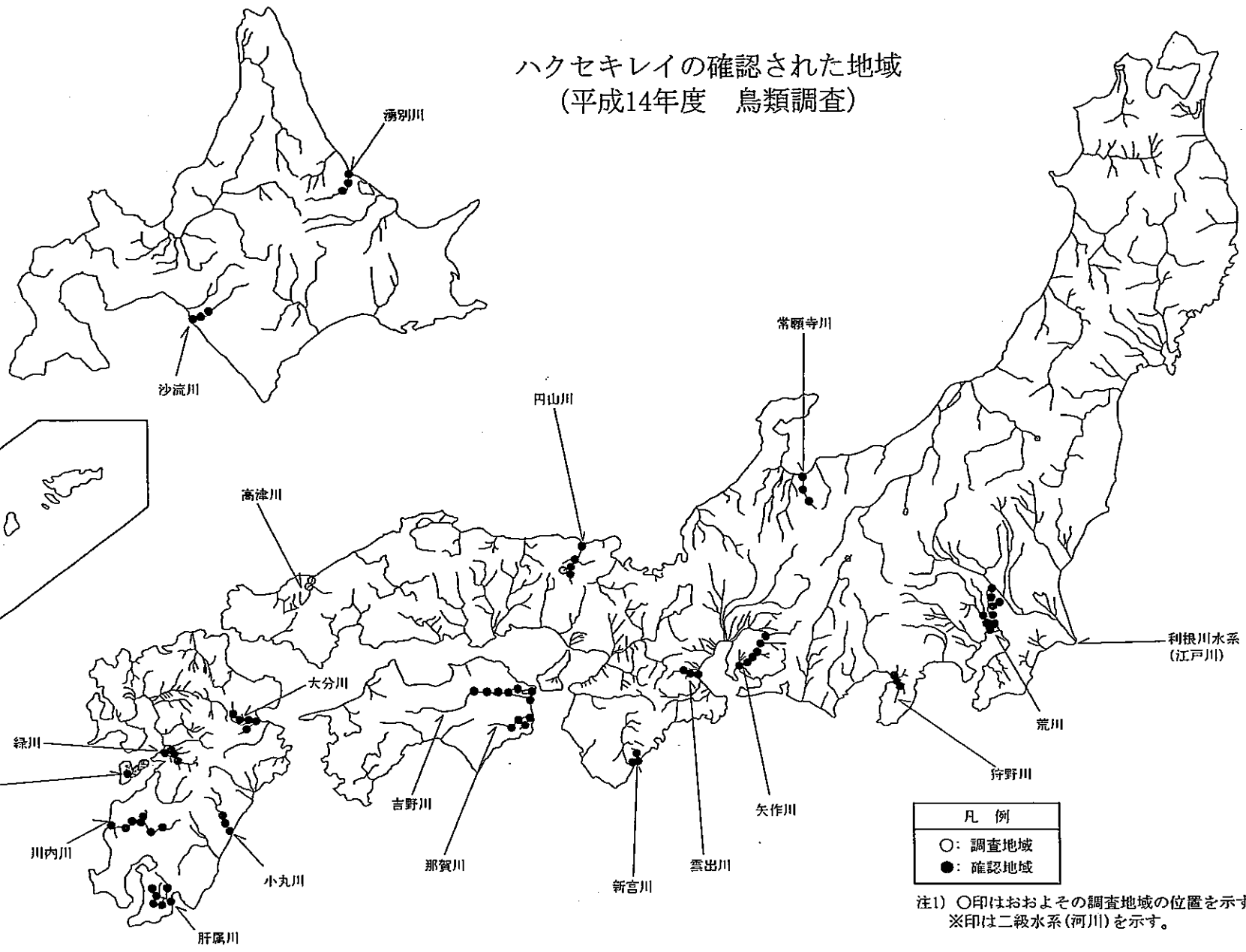


凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

ハクセキレイの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)

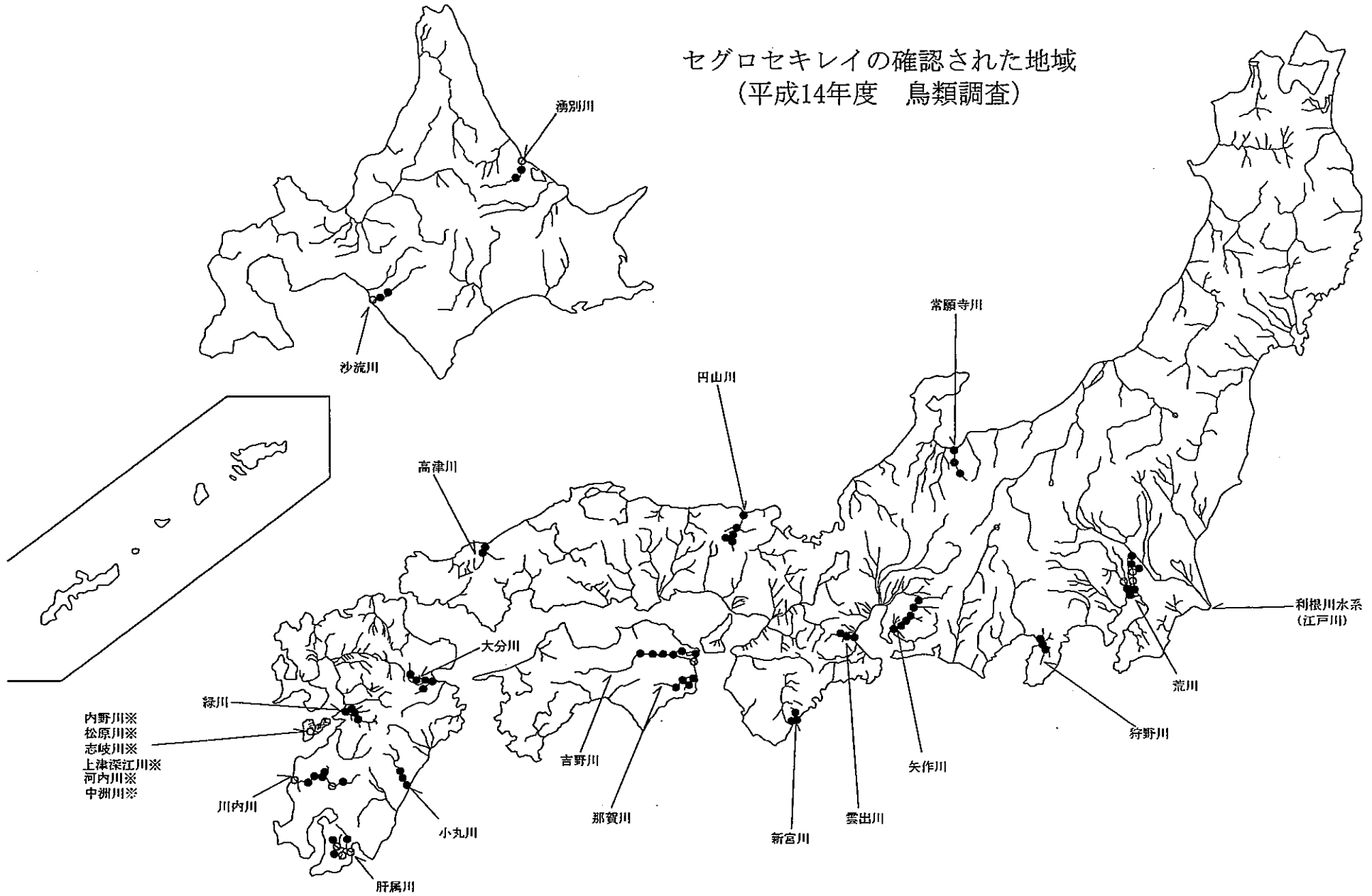


凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

セグロセキレイの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



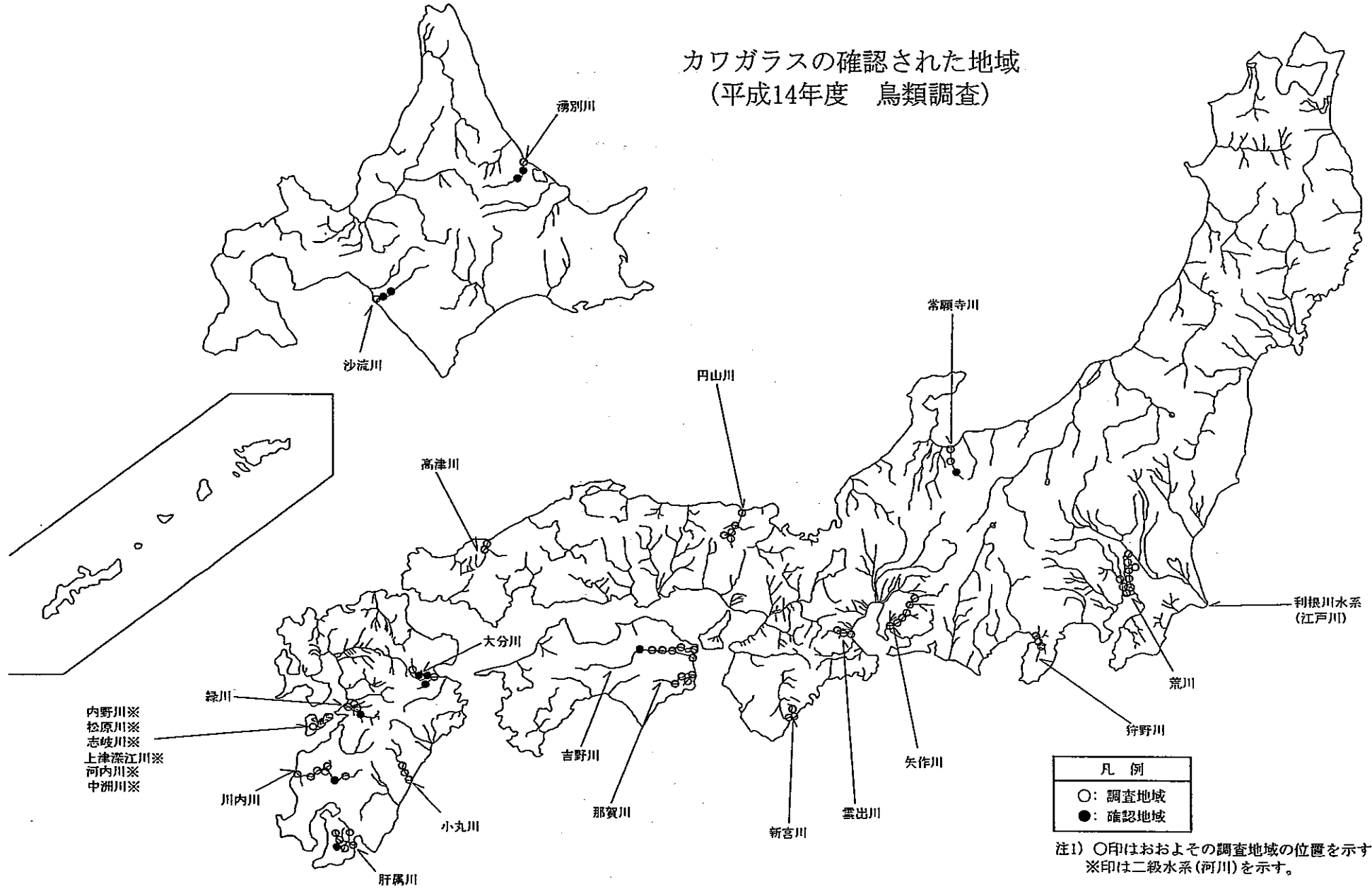
- カワガラスは全国の約半数の河川で確認  
水生昆虫を餌とするカワガラスの確認状況を整理しました。  
カワガラスは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち日本全国の 8 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-33、4-47 ページ)

カワガラスは、水生昆虫などを餌として生活しています。滝の裏や堰堤の水抜き穴などを営巣場所とし、主に水質の良好な上流域を生息場所としています。カワガラスは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、北海道地方、北陸地方、四国地方、九州地方の 8 河川で確認されました。確認位置を見ると、主に上流域で確認されました。

なお、二級河川では、九州天草諸島の 6 河川について取りまとめを行いましたが、カワガラスは確認されませんでした。

カワガラスの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。



【ハマシギの確認状況】

(鳥類調査)

・ ハマシギは調査実施河川の約半数で確認  
 河川での干潟の状況を考える上で、日本に広く分布し、干潟を利用するハマシギの確認状況を整理しました。  
 ハマシギは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、11 河川で確認されました。また、全国の広い範囲で越冬していることがうかがえます。  
 (資料掲載: 4-35、4-47 ページ)

ハマシギは、日本全国の干潟に飛来する渡り鳥で、北海道、東北地方では主に旅鳥、関東以南(西)では主に冬鳥です。ゴカイや小型の甲殻類などを食べます。広大な干潟や河口の砂州や岸辺などで、多くのハマシギが集まって群れで活動します。ハマシギは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、11 河川で確認されました。確認された調査地区の分布をみると、主に河口近くで確認されました。

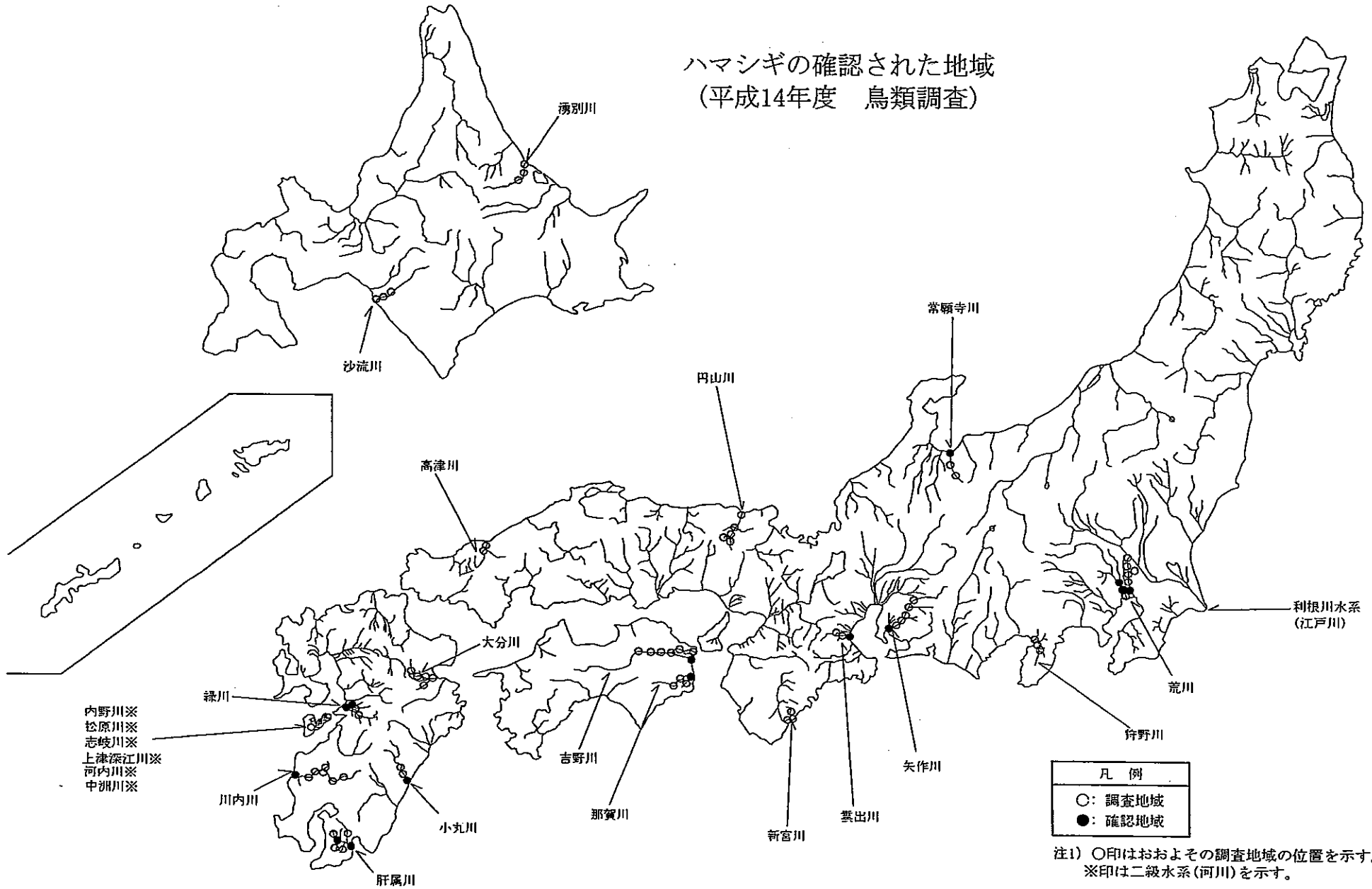
ハマシギの確認時期

地方	河川	2001年					2002年												2003年				
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
関東	利根川水系江戸川								●	●	○	○		○		●		●					
	荒川	○	○	○	○		●		○	●	○	○											
北陸	常願寺川								○	○	●	○		○	○						○		
中部	矢作川								○	●		○			○				●				
	雲出川								●		○		○		●			●					
四国	吉野川								●		●	○		●	○	●							
	那賀川						○					○	○		○	○		●					●
九州	緑川								○	○	○			●	●			●					
	小丸川									○	○			○				●			○		
	川内川															○		●			●		●
	肝属川									○	○		○			●		●			●		●

凡例) ○: 調査月、●: 確認月

注) 表にはハマシギの確認された河川のみを掲載した。

ハマシギの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【コアシサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況】

(鳥類調査)

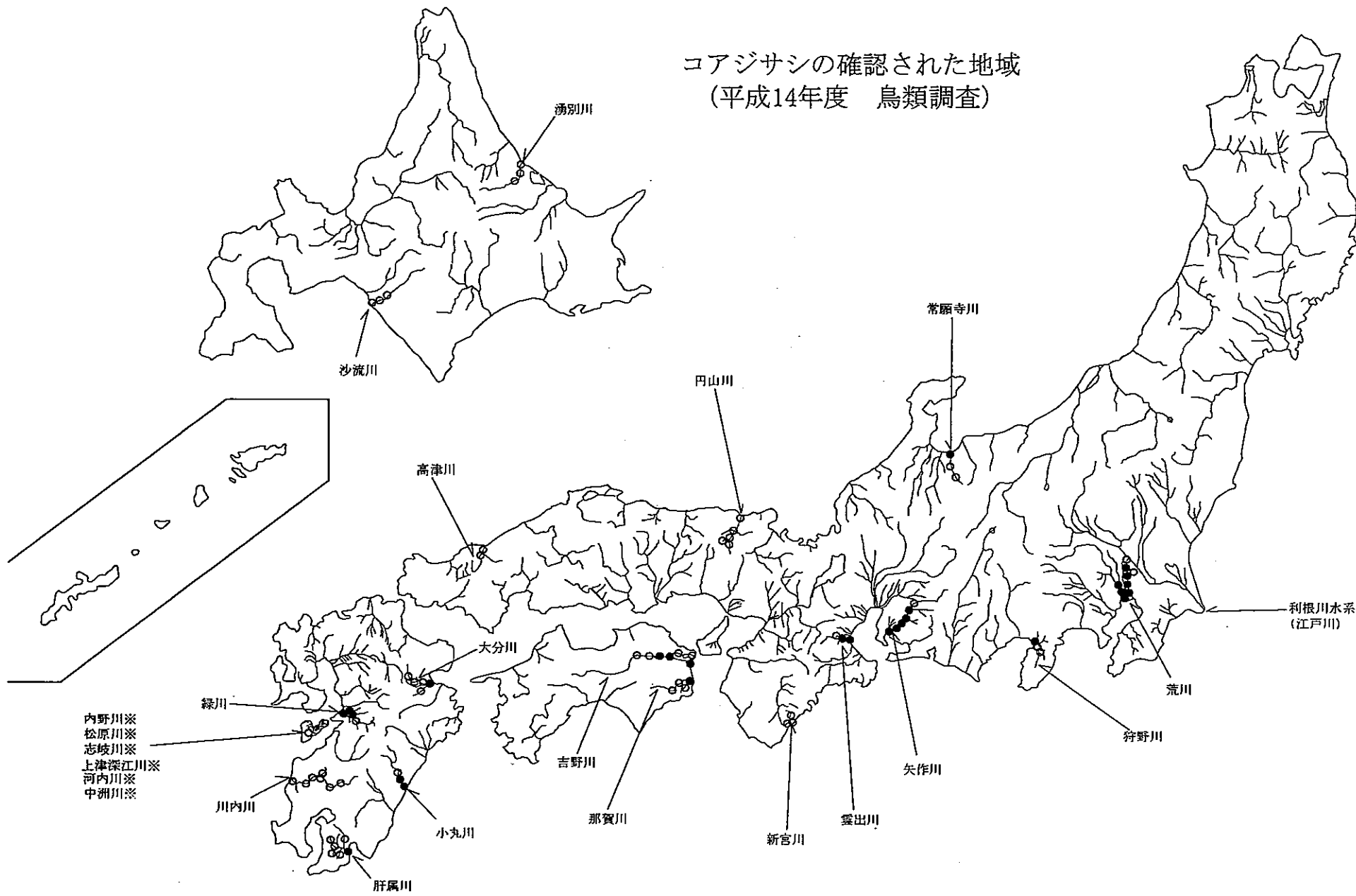
- 砂礫河原で営巣するコチドリ、イカルチドリを全国のほとんどの河川で確認  
河川での砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアシサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。  
コアシサシは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、12 河川で確認されました。また、コチドリ、イカルチドリは、それぞれ 17 河川、16 河川で確認され、確認位置も河川の広い範囲にわたっていました。

(資料掲載: 4-37~4-39、4-47 ページ)

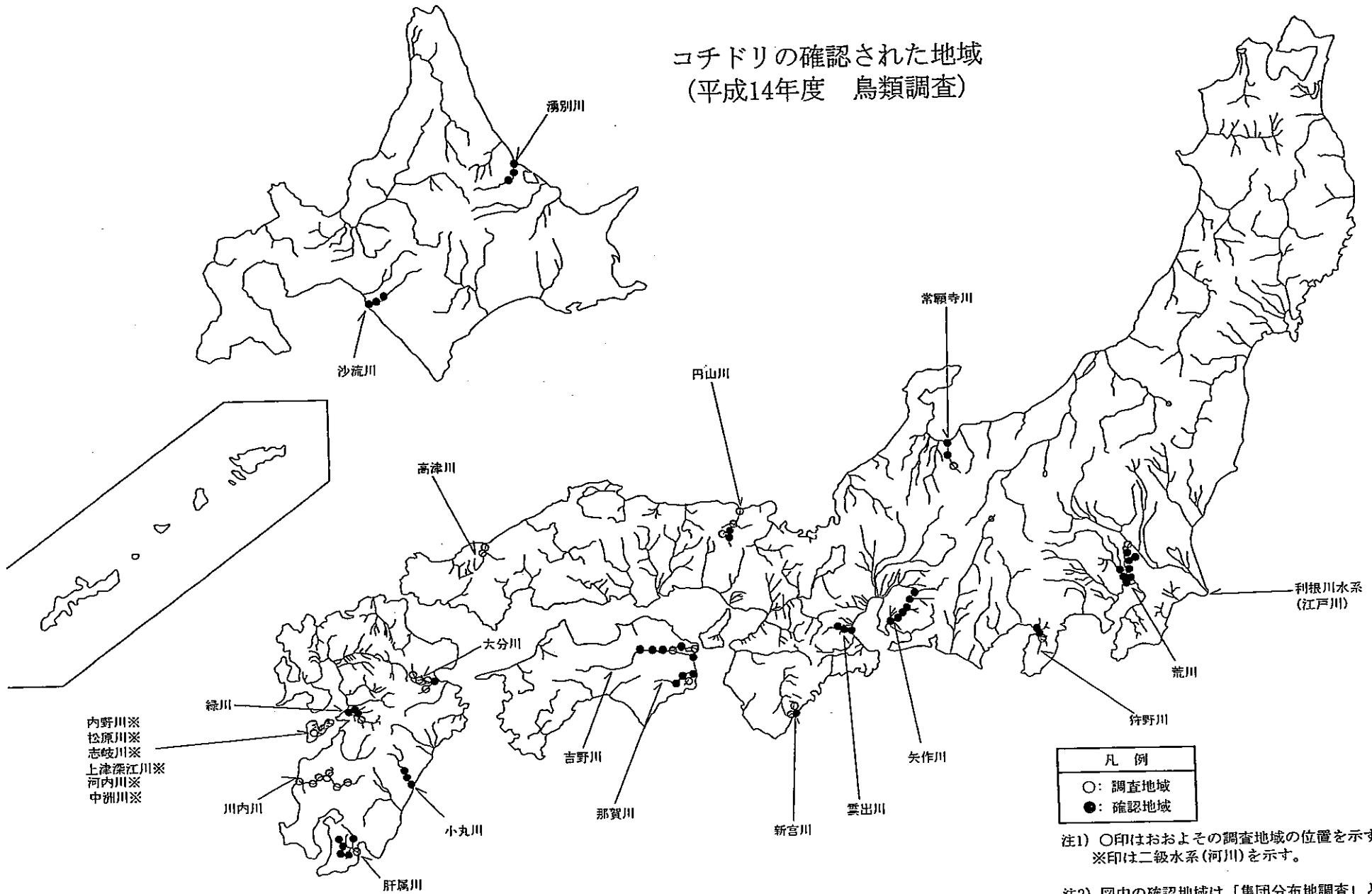
コアシサシは赤道を越えてオーストラリアから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南(西)でみられ、海岸や大きな川の河口や中州のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って2~3個の卵を産みます。数が減少しているといわれ、環境省のデータブック(2002)では絶滅危惧II類に指定されています。コチドリは、主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは、日本では留鳥として本州以南(西)で繁殖します。主な生息場所は、コチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません。

コアシサシは、今回とりまとめを行った一級河川 18 河川のうち、北海道地方、中国地方を除く 12 河川で確認されました。また、コチドリ、イカルチドリは、それぞれ 17 河川、16 河川で確認され、確認位置も河川の広い範囲にわたっていました。

コアジサシの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



コチドリの確認された地域  
(平成14年度 鳥類調査)



内野川※  
松原川※  
志岐川※  
上津深江川※  
河内川※  
中洲川※

凡例  
○: 調査地域  
●: 確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
※印は二級水系(河川)を示す。

注2) 図中の確認地域は「集団分布地調査」と  
「移動時調査」を含まないため、これらの  
調査でのみ確認された場合は図示されない。



## • 特別天然記念物のコウノトリを富山県の常願寺川で確認

特別天然記念物、国内希少野生動植物種及び絶滅危惧 IA 類に指定されているコウノトリを富山県の常願寺川で確認しました。日本における野生のコウノトリは 1971 年に絶滅しており、現在では大陸からの迷鳥がときおりみられるだけとなっています。

(資料掲載: 4-41 ページ)

コウノトリは、翼長 2m におよぶ大型の鳥で、フナやドジョウなどの魚類やカエルなどを餌として、主に松の木などの樹上に営巣します。ユーラシア大陸東部に分布し、江戸時代以前は日本各地で繁殖していましたが、明治以降狩猟が解禁されると急激にその数を減らし、大正 10 年には生息地が天然記念物に指定されました。その後も、松林の伐採や河岸、水路のコンクリート化、湿田の減少などといった環境の悪化などで減少を続け、1971 年に最後の野生個体が保護され、日本での野生種としてのコウノトリは姿を消しました。現在、兵庫県のコウノトリの郷公園でロシアから贈られたコウノトリを人工繁殖しており、将来的には野生復帰も計画されているそうです。

今回確認されたコウノトリは、大陸からの迷鳥と考えられます。河川水辺の国勢調査としては、平成 4 年度の石狩川以来の確認記録となります。他からの目撃情報などによると、6 月はじめに飛来し河口付近で餌を取りながら留まっていたようですが、6 月末に飛び去りました。その後、8 月 5 日にコウノトリの郷公園に野生のコウノトリが飛来しましたが、同じ個体ではないかと考えられているようです。

